

## 6月20日「何を献げるのか!？」Ⅱコリントの信徒への手紙 8:1~15(新 333 頁)

今日の礼拝のテーマは「献げもの」です。聖書日課では3つの聖書箇所が示されていますが、今日はその3か所から1つずつ、献げものについてのメッセージを聴いていこうかと思えます。

まず、朗読としては読みませんでした。旧約聖書からは申命記 26 章が選ばれていました。神さまから約束された土地にたどり着いたイスラエルの人たちは、そこで得た収穫についてこう教えられています。「あなたはあなたの神、主の前にそれを供え、あなたの神、主の前にひれ伏し、あなたの神、主があなたとあなたの家族に与えられたすべての賜物を、レビ人およびあなたの中に住んでいる寄留者と共に喜び祝いなさい。(申命記 26:11)」イスラエルの人々は収穫物を神さまに献げ、共に喜び合うように示されたのです。誰とか？まずは神さまに仕える仕事をするため土地を持つことを禁じられた(つまり収穫がない)レビ人、それから、住むところを追われた寄留者です。この後には孤児や寡婦を含めた古代において最も弱い立場に置かれていた人たちと共に分かち合うように勧められます。どうして分かち合うように教えられるのか・・・それは、エジプトで奴隷となっていたイスラエルの人々は神さまに救い出されて約束の地へとたどり着いたからです。土地も、その土地から得た収穫物もすべて自力で獲得したものではなく、神さまから与えられた「恵み」だからです。ここに、現代の私たちにはなかなか持ちえない大切な感覚があるように思います。私たちの得た収入は決して自分の力によるものだけではないのです。

私たちを「献げもの」から遠ざける一つの要因に、自分の収入は自分の能力や努力によって手に入れた自分だけのモノだという感覚があると思います。自分が汗水流して得た収入をどうして献げたり、人と分け合わなきゃいけないのか・・・確かに一理ある気もします。けれども本当にそうなのか？私たちの得ているモノは果たして自分だけの努力や能力によるものなのか・・・

結構前になりますが、NHK「ハーバード白熱教室」という番組でマイケル・サンデル氏という哲学者の授業がありました。その回は「イチロー選手の年収は教師の400倍。これは道徳的に正しいか？」というテーマでした。かなり前の深夜にやっていたので、少し内容はうろ覚えなのですが、大体の人は100%イチロー選手が才能で成し遂げたのであって、何十億円もの収入すべてがイチロー選手が受け取って然るべきだと思われるでしょう(実際そうになっている)。でも授業の中でこんな問いが出されます。「彼は適切な指導者と出会わなければその成績は残せなかっただろう？」確かにイチロー選手は小学生の頃はお父さんが毎日野球の練習後にバッティングセンターへ連れて行っていらしたらしい。毎日練習に付き合う、並大抵の親では出来ない教育を受けていたわけです。もう一つ問われます。「彼は適切な環境がなければ、その成績は残せなかっただろう」日本という、ある程度安全で、日常の生活が確保されていて、そして野球が盛んな地域に生まれたから、イチロー選手は野球の才能を開花できたのであって、例えば紛争地帯とか、例えば極貧の家庭に生まれていれば、その才能を開かせることは無かったでしょう。少年院に行って彼女たちの生立ちを聴いて

いると、特によく分かります。

イチロー選手がイチロー選手として成功して、多くの財産を得るには、もちろん本人の才能も努力もあるでしょうが、生まれ育った環境がかなり多くの部分を占めているのです。そうすると、彼の収入のすべてを彼自身の功績とすることは実はほとんど出来ないのかもしれない。それは私たち皆に言えることであって、私たちの得ているものはほとんどは実は「運」に左右されることが多く、キリスト教的に言うならば神さまから与えられたものなのです！だから聖書は教えるのです！奉げなさい。分かち合いなさい！あなたが得ているもの、それは元々は神さまがくださったものなのだから！

2つ目にイエスの語られた言葉から考えたいと思います。「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」イエス様はビックリするようなことをはっきり言うのです。神さまに献げものをするよりも、兄弟と和解することを優先しなさい！と、

ちょうど今週の祈祷会が祭壇の規定についてだったのですが、古代においては、礼拝＝献げものでした。旧約聖書には、献げものの細かな規定がありますし、人々はそれに基づいて正しい献げものをするに情熱を燃やしました。それはイエス様の時代まで続き、赤ちゃんのイエスを連れて両親がエルサレム神殿を訪れた時に、鳩の献げものをした物語も描かれています。それ自体は神から来たものを神さまにお返しする、正しい在り方だと思います。しかし、献げものがあまりに重視され過ぎると、献げものさえすれば事足りるという態度や、逆に献げものがなければ神に近づけないといった、祭儀至上主義が生まれかねません。例えば、献金さえしておけば礼拝に出て御言葉を聴く必要はないとか、献金さえしていれば私生活はめちゃくちゃでも良いのか？（それこそ兄弟とは不仲でも良いのでしょうか？）逆に、貧しくて献金する余裕が全くない人はどれほど隣人を愛し、支え合って生きていても神さまの祝福を受けられないのでしょうか？祭儀至上主義は行き過ぎればそうなりかねないということです。

預言者たちはそういった形式的な献げものばかりを重視する在り方を批判しました、そして神が本当に喜ばれるのは、牛や羊やハトなどの犠牲の献げものではなく、真実であり、正義であり、悔い改める魂である、ということを語りました。預言者ホセアが伝えた神さまの言葉です。「6:6 わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない。」また詩篇の作者はこう歌います。「詩篇 51:18~19 もしいけにえがあなたに喜ばれ／焼き尽くす献げ物が御旨にかなうのなら／わたしはそれをささげます。しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません。」イエスも言われます。献げものをする前に「兄弟とまず和解せよ！」イエスにとって、隣人を愛し、共に赦し和解しながら生きることが神への献げものだったのでしょうか。

最後に使徒パウロの言葉から考えたいと思います。パウロは、マケドニアの教会の人たちが、貧困にあえぐエルサレム教会の人たちのために献金を送ったことを心から喜びこう書いています。「兄弟たち、マケドニア州の諸教会に与えられた神の恵みについて知らせましょう。彼らは苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなったということです。」ここでパウロの喜びが爆発したのは、とても素敵な理由であるように思います。それはマケドニアの教会の人たちがお金持ちで豊かで有り余る中から、エルサレム教会を支援したからではありません。「8:2 彼らは苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなったということです。」マケドニアの教会の人たちも十分に貧しく厳しい状態にあったのに、なお、エルサレム教会を助けるために献げものをした結果、より喜びにあふれる経験となったということです。

私は時々こんなことを思います。「神さまはどうして僕に宝くじ当ててくれないのだろうか？僕に大金があればいくらでも困っている人を助けることに使うのに・・・」たくさん余裕があれば、たくさん奉げて、たくさん分け合うけれどなあ・・・聖書は確かに分かち合いを説きます。それは人々を平和へと導く知恵だし、不平等を公平にする知恵です。持つ者の責務（ノブレスオブリージュ）と言う考え方もあるようですが、でも、聖書はそういった義務感や倫理感の話をしているわけではありません。信仰による献げものはもっと強い！たとえ自分たちも貧しくとも、それでも分かち合うならば私たちは豊かになれる、それが信仰の力だとパウロは伝えるのです。

貧しくとも支え合うことで豊かになれる。私たちは今もその物語を大切に持っています。イエスはたった5つのパンと2匹の魚で5000人を超える人たちと満足し合ったと聖書にはあります。コロナでなかなか行っていくことが出来ていませんが、私たちはそのことを思い起こし、毎月、1つのパンを大勢で分け合います。どれほど小さな恵みだろうと、神の恵みは分かち合うならば豊かになるのです！

これは、独特の互助制度を持つ四国教区の教会でずっと奉げてきた皆さんに言うのはむしろ今さらかもしれません。地方の小さな教会を支えるために、地域全体で自立連帯献金を献げ、支え続けてきた皆さんに、新参者のわたしから何かを教えるというのはおこがましい気がします。そう、この恵みの分かち合いによって、この小さな地方の教区にどれほど、大きな福音の種が蒔かれ、喜びが与えられてきたことでしょうか。これからも大切に支え合いを続けていきたいと願います。

今日の三つの聖書の言葉は私たちを献げるといふ生き方へと招いてくれます。私たちは自分たちの得ているものが、自分の素質や努力だけによるものではないと、そして神さまからの恵みだと気づいたならば、自然とその恵みは神さまが望む仕方<sup>1</sup>で用いられるべきだと分かるでしょう。そして、イエスは神の恵みとは、分かち合い、喜び合っていくなかでもっと大きくなっていくのだと教えられました。だから私たちは大切な恵みを献げながら生きるのです。パウロの言葉で今日のメッセージを終えましょう「12:1 兄弟（姉妹）た

ち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

### とりなしの祈り

いつも私たちのそばにいて守り、支えてくださる神さま、あなたの御名を褒めたたえます。今日、私たちをオンライン礼拝へと呼び集めてくださったことを感謝します。顔を合わせることはできずとも、ともに御言葉に聞き、あなたに従う愛する兄弟姉妹が与えられていることに心から感謝します。

恵み深い神様、私たちにいつも大きな恵みを与えてくださることを感謝します。日々の糧を、日々の生活に必要なすべてのものを、仕事を、愛する家族、兄弟姉妹を、毎日の課題を与えてくださることを感謝します。あなたの大いなる恵みは私たちに十分です。どうか、私たちがそれらを正しく分かち合うことが出来るようにしてください。喜び合うことができるようにしてください。

哀れみ深い神様、私たちの罪を赦してください。私たちは時に思い上がり、ささげるよりも、独占することに、分け合うよりも、奪うことに心向かうことがあります。どうか私たちの弱さをあなたのみ言葉で清めて、あなたに捧げながら生きる道を選ばせてください。神さま、今困難の中にある方のために祈ります。紛争や暴力の中にある方、貧困、飢餓の中にある方、病の方、高齢の方、孤独の方、忙しさに疲れ果てている方、特にコロナウイルス感染症に苦しむ方、すべての痛みや嘆きをあなたが受け止めて癒してください。私たちを共に生きるために遣わしてください。

子どもたちのために祈ります。すべての子どもたちに祝福を与えてください。子どもの教会と愛光保育園に集う子どもたちの上にあなたの祝福が豊かにありますように。火曜日には愛光保育園の理事会・評議員会があります。どうか、その運営があなたのみ旨にかなったものとなりますように。

今日集った一人一人の上に豊かな祝福がありますように。また、集うことの叶わなかった一人一人の上にも同じ恵みがありますように。